

Bユニット

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	24	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	3	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としてその人らしく普通にくらしていける」との独自の理念を挙げており、個性性を重視した理念となっているが、「地域の中で」という点については課題が残される為、地域密着型サービスとしては反映されていないように思える。	1	「地域」を視野に入れた理念を職員全員で検討し、今後のサービスに生かしたい。
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしい生活とは何か。」を職員全員が意識し、入居者様一人一人のケア方法を月に1回のカンファレンスや毎日の申し送り等で話し合い、必要事項については個人記録等に残すようにしている。また、入居者様の日々の生活の中での必要事項についても同様に記録に残すようにしている。	1	理念について話し合える機会を月に1回のカンファレンス等で持つようにし、サービスに反映出来るように取り組んでいきたい。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ユニット入り口に額縁に入れ掲示し、来訪された皆様に御理解して頂くようにしている。しかし、近隣の皆様については来訪される事が殆ど無い為、浸透していないように思える。	1	地域向けホーム便りの発行等して「地域の中で暮らし続ける事の大切さ」を御理解していただく。と共にご家族にも訪問時や家族会ホーム便り等を通じて御理解して頂けるよう努める。
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	3	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物と等に出かけ、近隣の皆様とお会いした時には積極的に挨拶を交わしたり、話しかけるようにして、触れ合う機会を多く持つように努めている。	1	施設行事等の案内をし、近隣の皆様にも参加して頂けるように努める。また、近隣の皆様が参加しやすい行事を企画する。
	5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在地域の行事には参加していない。	1	運営推進会議を通じて地域活動や地域行事の情報を集め、積極的に参加し地域交流に努める。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合と いの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人クラブの食事会や大学病院での勉強会へ出向き、「認知症ケア」「グループホームについて」等の説明、講義を行った。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。	1	地域の皆様に参加して頂けるような認知症介護の介護教室の開催や認知症に関する相談場所として確立したい。
		3	理念を实践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	5	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「サービスのマンネリ化を防ぎ、質の高いサービスを提供できるよう見直す」事を目的とする事を理解しており、自己評価を職員全員で取り組んでいる。尚、結果については月に1回のカンファレンス等で報告し改善に努めている。	1	日々の業務においても、職員全員が意識して取り組むよう努める。
		8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様には、事前に会議内容を文章にて配布し会議への参加を呼びかけている。また、会議では行事内容等の報告を行っていると共に、委員の皆様から頂いた意見、要望を受けての実施状況等も報告している。職員への報告については月に1回のカンファレンスで行っている。	1	委員の皆様方の意見も踏まえて、施設内外の行事を積極的に実施していけるよう検討し、ご家族の皆様や地域の皆様と協力して行えるよう努める。
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、事故報告書や認定更新の為の書類提出、運営推進会議の報告以外に行き来する機会はないものの、市が主催する研修会には積極的に参加するよう心がけている。	1	施設行事への参加案内やホーム便りの定期的な発行等を行うことで積極的な連携に努める。
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、関連事業所との合同で行う勉強会に参加し理解するように努めている。御家族の皆様には家族会を通じて説明を行っているが必要に応じてその都度管理者が説明を行っている。	1	職員には月に1回のカンファレンス等を利用して更なる理解に努めるよう取り組む。また、行政の出張サービスを利用して御家族の皆様にも更なる御理解を頂けるような機会を設けるよう努める。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	独自のマニュアルを作成すると共に、月に1回のカンファレンスや日々の申し送り時を利用して気づいた点等を話し合い、職員間で注意を払っているが、関連法について学ぶ機会は設けていない。	1	関連事業所との合同勉強会等に提案し、関連法について学ぶ機会を設けるよう努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	7	
理念に基づく運営	4	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に事業所見学をしていただいただけの方については行って頂き、利用料金の説明や御家族の希望等を尋ねる様にしている。また、入居時には、重要事項の説明や起こりうるリスク、重度化、看取りについての対応、医療連携体制の実態等を時間を取って説明し同意を得ている。	1	入居者様や御家族の気持ちになり、将来のことを含めて疑問等を引き出し、それに対して十分な説明を行えるよう努める。
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者様本位の運営に努めている。また、月に1回のカンファレンス等で入居者様の気持ちや意見、要望を共有するようにしている。	1	介護相談員の訪問を受け入れる等、入居者様の意見や要望等が外部の方へ話せる機会を設けるよう努める。
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については定期的に経理から郵送にて報告している。入居者様の状態については、御家族が来館された際や電話があった際に説明し、記録開示希望があれば対応している。職員の異動については報告していないものの、ユニットの入り口に写真を掲示し来館された方がわかるようにしている。	1	ホーム便りの頻度を増やすと共に、ケアマネから定期的に文書や電話等を利用して報告するように努める。
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設置し、意見や不満がある場合には無記名でも構わないので投函して頂くよう家族会や面会時をお願いしている。又、窓口が市町村等にある事を重要事項説明書に記載し、入居時に説明している。と共に、面会時や家族会の時に常に問いかけ、何でも言ってもらえる様な雰囲気作りを心がけている。	1	関連事業所にも窓口を置き、外部に表せる機会を設けることで反映に努めている。また、日々御家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に伝えられるような機会を作り、その苦情の発進要因を探り、質の向上に努める。
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや月に1回のカンファレンスで意見を出し合って具体的に話しをする機会を設けると共に、必要な時には個別面談を行っている。	1	業務中でも話し合える時間が確保できれば、その都度、話し合える機会を設けるよう努める。
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	平日に看護師を常勤させ急変時の対応に努めている。また、外部受診等で増員が発生した場合等は可能な限り勤務変更を行う等して柔軟な対応に努めている。	1	余裕を持った人員の確保と共に、管理者が状況に応じた対応が出来るよう通常シフトには入らない等の柔軟な体制作りを努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 践 制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットのレベル統一を図る目的でパート職員 の異動を実施。又、毎月3日の希望を受け入れ、 雇用条件に合わせた配置も行っている。個人面談 や食事会をすることで職員のストレス解消に努め ている。異動、入職があった場合には、入居者様 にきちんと紹介している。	1	職員の業務に対する意識統一及びレベルアップを 図ることで、入居者様のダメージを防ぐ配慮に努 める。
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	6	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や 年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生 きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよ う配慮している	募集、採用にあたって、性別や年齢を理由に排除 していないものの、勤務時間や曜日の希望がある 人については面接時に本人に対して確認してい る。また、資格取得の際には試験前日は休日にする 等の配慮をしている。希望する研修等も積極 的参加できるよう配慮している。	1	突発的な自体が発生しても柔軟な対応が出来るよ う職員の確保に努める。
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するた めに、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月に1回のカンファレンスや日々のミーティング の中で人権尊重を踏まえて話しをするようにして いる。	1	関連事業所との合同勉強会等に提案し、人権尊重 について学ぶ機会を設けるなどして更なる取り組 みに努める。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をた て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	関連事業所と2ヶ月に1回合同勉強会を実施して いる。と共に県や市、GH協議会主催の研修には 積極的に参加するように努めている。また、後日 資料を回覧したり月に1回のカンファレンスで報 告してもらったりと内容の共有に努めている。	1	可能な限り多くの職員が研修に参加できるよう努 める。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協議会や市のサービス事業者協議会に加 入し研修会や意見交換会等に参加して同業者との 情報交換に積極的に取り組みようになっている。	1	日常的に情報交換が行えるよう、インターネット の活用を検討しネットワーク作りに努める。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境 づくりに取り組んでいる	問題発生時には、その都度個人面談を行ったり、 不定期ではあるものの食事会実施してストレスの 軽減が図れるようにしている。利用者と離れて休 憩できる場所が確保できていない。	1	食事会等の定期開催を実施し、職員個々のストレ スが発散できる機会を多く持つよう努める。休憩 室の確保に努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が定期的に来る事はないものの、管理者が年に2回実績評価し個々の状態を把握し伝えるようにしている。それ以外にも必要に応じてその都度伝えるようにしている。資格取得時は本人の意向を重視しながら相談し、妥当な立場で業務をしてもらっている。	1	個々の状況を直接情報収集出来る機会を多く持つように努めて頂く。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	10	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	4	
	1 相 談 か ら 利 用 に 至 る ま で の 関 係 づ く り と そ の 対 応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談があった際には、御本人を含め御家族の方と直接面談を行い、センター方式を用いて生活状態、要望等を理解するよう努めている。意思疎通が困難な方については、御家族の方に可能な限り詳細に情報収集するようにしている。	1	ショート利用等体験的に利用して頂き、事業所の雰囲気を実際に体験して頂き入居の有無を判断して頂くよう努める。
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談があった時点で、事業所の見学をして頂き、これまでの経緯や今後の御希望等をゆっくりと話す機会を設け、御家族が求めているものを理解し事業所としてどのように対応出来るかを話し合うようにしている。	1	電話のみの相談であっても、可能な限り来訪して頂くよう声かけし、直接面談できる機会を持つように努める。
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた際には、何故グループホームを希望されたのか等を伺うようにし、内容によっては居宅支援や有料老人ホーム等の利用紹介したりしている。」	1	必要と思われる際には、関連事業所の居宅サービスや公的機関の包括支援センター等の担当者に面談時同席して頂き、よりよいサービス利用が出来る様に努める。
		28 外 部 評 価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院系列である為、意思疎通の困難な方がいきなり利用開始になることが見られるものの、可能な限り御本人や御家族には見学に来て頂き、入所後は慣れるまでの間(1週間～2週間程度)は職員が頻繁に関わりを持つようにしている。御家族には可能な限り面会に来て頂くようお願いしている。	1	可能な限りショート利用等体験的に利用して頂けるよう努める。
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価6項目・外部評価1項目	6	
係り2 継続 へ の ま で の 支 援	29 外 部 評 価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付け(汁物)を入居者の方に見てもらっている。また、午後の時間などを利用して、昔の体験談やしきたり等の話しを伺ったりとコミュニケーションを多く取りお互いが和やかに生活できるよう努めている。	1	入居者様の得意分野を見つけ出し、それを発揮できる機会を多く持つよう努める。また、入居者様は人生の先輩である事を常に意識し、入居者様から学んだ現代でも生かせることは実践するように努める。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の状態は個人記録に残し、御家族が面会に来られた時にはその都度出来事として伝え、必要であれば記録を見て頂くようにして情報の共有に努めている。また、入居者様の対応で困った時などは御家族の方に御協力して頂いている。緊急時にはこまめに連絡を取り合い状態説明や対応方針等を説明し対応している。	1	ケアプランを通じて、日々のケア方針等を話し合い御家族の方にも御協力いただき共に御本人を支える為の支援が出来るように努める。
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	季節行事に御家族の参加を呼びかけたり、定期的に家族会を開催し情報交換を行ったりしている。と共に、御家族の面会時には一緒に外出して頂く等して御本人ととの架け橋になるように心がけている。	1	御家族が疎遠傾向にある場合にはホーム便り等を通じて生活状況を定期的に伝えるようにし、よりよい関係の継続に努めている。
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「買い物に行きたい」や「家にちょっと帰ってくる」等の希望があった際には職員が同伴したり、御家族に依頼したりして一人一人の希望に応じた対応が出来るように努めている。	1	これまでの人間関係について更に把握する為にも御家族の方を通じて可能な限り知人の方々に面会や外出をして頂き、関わりを継続していけるように努める。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつは職員も一緒に摂りながら多くの会話をもち、入居者様同士の関係が円滑になるようパイプ役となって支援している。また、御不満や御意見が出た際には居室で会話する等をしている。	1	御不満や御意見が出た時に限らず、個別に話を聞いたり相談に乗ったりするような機会を多く持つよう努める。
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関連事業所に移っている方や系列病院に移っている方が多い為、時折職員が訪問したり、散歩で会った時等は積極的に声をかけている。	1	皆様に関係を継続的なものにする為にも、職員が訪問する際には散歩を兼ねて一緒に訪問して頂くようにする。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	12	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3項目・外部評価 1項目	3	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情若しくは行動等から把握出来るように努めている。特に困難な方については御家族の面会時等により情報を得て検討するようにしている。また、御本人のペースを尊重して食事や入浴時間は自由にする等の対応を行い本人本位に努めている。	1	テレビや家具等馴染みの物を持ち込んで頂き、本人の希望、意向に合った安定した生活が継続的に送れるように努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事やおやつと一緒に摂りながらの会話やレクリエーション等で以前の暮らしが話せる機会を持ち、少しずつでも把握に努めている。意思疎通の困難な入居者様については、知人や御家族の方が面会に来られた時に情報を得るようにしてる。	1	編み物や洗濯物たたみ、音楽鑑賞等実際に支援されているものもあるが、生活暦を把握したままの状態になっているものもあるのでホームでの生活に行かせるよう努める。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや一日の過ごし方等を個人記録や申し送りノートに残し、職員全員で状態把握に努めている。又、情報の中で「出来ない」と言われていた部分については必ず一度はトライして頂き、把握するようにしている。	1	月に1回のカンファレンスや日々の申し送りの中で「出来ること」「出来ないこと」を再確認しあい全体的な把握に努めている。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)		自己評価3項目・外部評価2項目	2	
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、御本人の望む生活や思いを聞き、職員間でモニタリングやカンファレンス時に職員全員の意見を出来るだけ取り入れたアセスメントを行い、反映出来るようにしている。また、サービス担当者会議には御本人を含め御家族や医師等に可能な限り参加して頂き作成に努めている。	1	インフォーマルなサービスをなるべく取り入れるように努める。
		39	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の進行状況や評価等を日々記録に残すと共に最低でも6ヶ月に1回は見直しを行い(状態変化時は、その都度)サービス担当者会議を開催するようにしている。	1	毎月評価したところをモニタリング部分に記録し、見直しと検討を行っている。
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の暮らし方がわかるケース記録用紙とバイタル、食事、水分量や排泄回数を記録する用紙があり、いつでも確認できるようにしている。ケアプランの具体的項目に番号を付け、日々ケース記録に記録して確認している。また、入居者様の状態を簡潔に書いた申し送りノートを作成し、業務開始前に確認することを義務づけている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)		自己評価1項目・外部評価1項目	1	
	3 柔軟な支援	41	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連の訪問看護ステーションと医療連携体制を結び24時間対応に努めていると共に、希望に応じて看取りまでの生活継続をして頂いける体制を整えている。また、ショートステイが利用出来るようになっている。	1	地域の自宅で生活されている認知症高齢者を把握し、いざという時になじみの環境と職員としてショートステイが提供できる体制が確立出来るように努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	6	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消火避難訓練を年2回実施し、消防署と災害時における連携を確認すると共に意見交換する機会を設けている。また、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、民生委員の方を含め自治会等の皆様に参加して頂き支援の協力依頼を行っている。	1	地域のイベントへの積極的参加や保育園、小学校への協力依頼等を踏まえて交流を図るよう努める。
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に毎月訪問理美容サービスに来て頂き、御本人や御家族の希望に沿った髪型にして頂いている。と共にヤクルトの訪問販売も受け入れている。また、関連事業所で開催されている音楽療法にも参加させて頂いている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に委員として参加して頂いている事で、意見交換や情報交換をする機会が増え、協力関係が築けている。	1	イベントへの参加依頼等を通じて関わりを多く持つ機会を設けるように努めたい。
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の往診の他に、御本人や御家族の希望される医療機関並びに主治医受診への通院介助を行っており、口腔関係については、かかりつけの訪問歯科診療に来て頂いたりと関係を常に築いている。	1	利用契約時に御本人と御家族に説明し同意を得ている。
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設当初より専門機関と医療提携を結んでおり、処方や相談必要に応じて検査をしていただいている。また、主治医とも連絡を取って頂く等の対応をその都度行っている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	平日は看護師が常勤として配置しており、その他にも訪問看護ステーションと提携を結び定期的に訪問して頂き、介護職員とも気軽に相談出来る体制が整っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には御本人の支援方法や身体状況等を文章(サマリー)にて医療機関へ提出し、情報の提供を行っている。また、入院中は入居様を可能な限り訪れるようにすると共に病院関係者や御家族と積極的に情報交換をし、早期退院や退院後の支援に結びつけるように努めている。	1	医療機関と連携して退院計画を作成する体制を検討する。
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御利用契約時に御本人及び御家族から御希望を伺うと共に、「終末期のあり方について」や「どこまでのケアが可能なのか」を話し合い方針を決定している。また、状態変化の際や終末期になった際には再度医師を交えて御家族に方針の確認を行い、方針の共有に努めている。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期には、御本人と御家族の意思を尊重し、安心して納得した最期が医師と職員とが連携して意思確認しながら取り組むようにしている。	1	月に1回のカンファレンス等を利用して終末期ケアについての方針について検討する機会を日頃から持つように努める。また、御家族においては、気持ちや意思の変化が見られたりするので面会時等で意思確認をするように努める。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所等へ移られる際は、これまでの生活環境、支援の内容、注意点等について文章(サマリー)で提供し情報を詳しく伝える事で暮らしやケアの継続が保たれるように努めている。	1	馴染みの職員が機会を作り訪問したり、手紙を書く等してダメージの防止に努める。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1~2 (自己 52~89・外部 23~33)				自己評価38項目・外部評価11項目	32	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)~(5) (自己 52~81・外部 23~30)		自己評価30項目・外部評価9項目	25	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52~54・外部 23~24)	自己評価3項目・外部評価2項目	2	
		52 外部 評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様には、馴染みられている呼び方や、名前でお呼びしている。また、申し送りの際は出来るだけ他の人に聞えないような場所を選んだり、小声で話す等している。と共に、イニシャルを使用することでプライバシーの保護に努めている。入居者様に声かけする際はその方のペースに合わせて行うようにしている。	1	日々の職員間での入居者様に関する情報伝達は、メモ等を利用して行うように努める。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴や食事の時間、服装、散歩、音楽療法等は事前に声かけをし、自己決定の尊重を心がけている。また、入浴や食事の準備等自己決定が出来る場面をを設けている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、散歩や買い物を希望される入居者様には直ぐに対応出来るように努めている。また、入浴やレクリエーション等拒否があった時は後日改めて声かけする等1人1人の気持ちを尊重した柔軟な個性のある支援を行っている。	1	職員ペースになる傾向が時折見られるので、その都度見直しを図る機会を設ける等して対応するように努める。
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	5	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に、その日の服装は入居者様に決めて頂いている。また、化粧道具を持ち込まれている方については口紅の色を一緒に選ぶ等して支援している。理美容は訪問して頂き、御本人の希望に沿った髪型をして頂いている。	1	特別おしゃれをする機会(買い物ツアー等)を多く持つように努める。
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をする際は、職員が同じ物を同じテーブルで食べ、楽しく食事出来るように努めている。毎日の献立は系列の厨房で作成しているものの、毎食の汁物や日曜日の夕食は台所で作成している為味見等入居者様のレベルに合わせてお手伝いして頂いている。	1	献立の中に入居者様の嗜好を今以上に反映して頂けるよう努める。
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は入居者様の個々の嗜好物を理解するよう努めており、チョコレートやお菓子等が好きな入居者様と一緒に買い物に出かけて行き、好きな時間に食べて頂く等の支援を行っている。	1	御家族から情報集したり摂取量等を見ながら入居者様の嗜好物理解に努める。
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンや習慣を個人記録に残す事で理解し、定期的にトイレへ誘導したりリハビリパンツや尿取りパットを使用する事で、排泄の失敗の減少やトイレでの排泄の確立に努めている。	0	
59 外部評価 26	入浴を楽しむことのできる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決めていたものの、入居者様の希望をその日に伺うようにし、希望されない方については翌日再度声かけをする等して希望される日に入浴出来るように支援している。また、拒否の強い入居者様についてはタイミングや職員を代える等して安心感を持って頂くようにしている。	1	昼夜を問わずに入浴出来る環境作りを検討するよう努める。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない時等には、温かい飲み物を飲んで頂いたり、一緒におしゃべりをしたりする等してゆっくりとした時間を過ごすべく支援している。また、お昼寝が日課となっている入居者様にはその時間はゆっくりとして頂いている。	1	生活リズムの安定を図る為にも、日中の活動内容を検討するように努める
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	6	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干して頂いたり、たたんで頂いたり、個々のレベルに合わせて御自分で出来る事は可能な限りして頂き、御自分の力が発揮できる機会を設けている。	1	入居者が持っている知恵や経験を生かせる機会を多く持てるように努める。
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所で管理しているものの、御希望される入居者様には御家族の了承を得て少額所持して頂いている。また、使い道についても御本人にお任せして必要なものを買って頂く等して使えるように支援している。	1	外出の回数を増やす等日々の生活の中で、お金を使う機会を増やせるよう努める。
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物希望される入居者様には近くのスーパーやコンビニ、公園へ出かけるように支援している。	1	ホームのベランダを利用してお茶や食事をしたり、戸外へ食事やお茶に出かけたりと外出する機会を多く持てるように努める。
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様より御希望があった際には、御家族に相談し実現に向けて予め計画をたて、職員の勤務を調整するなどして柔軟に対応するよう努めている。	1	外出先の希望アンケートをとる等して積極的な外出支援を行うように努める。
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があった際には、事務所の電話を使用して頂き、会話をする際はその場を離れるようにする等プライバシーに配慮した環境作りに努めている。	1	御家族や知人の方が面会に来られた際には手紙等を出して頂くよう依頼する等して環境作りに努める。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は特に設けておらず、宿泊を希望される方には別室を準備する等柔軟に対応していると共に、面会時には入居者様と一緒にお茶を飲んで頂く等の気軽に訪問できる雰囲気作りに努めている。	1	御家族だけでなく、入居者様の馴染みの人達にも訪問して頂けるように御家族に依頼する。また、訪問された方が入居者様とゆっくりと過ごせるスペースを居室だけに限らず確保出来るように検討する。	
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	6	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自のマニュアルを作成すると共に、「高齢者の権利擁護」や「身体抑制」に関する勉強会を関連事業所との合同勉強会で実施している。また、月に1回のカンファレンスや日々のミーティングの中で職員の共有認識を図っている。	1	その日のケアを振り返る機会を設け、身体抑制が行われていないか等の取り組みを検討する。	
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	下肢筋力の低下した入居者様が気づかない間に階段を降りていたり、車椅子の方が1人で外に出られたりしていた事もあり、御家族の皆様や職員とで検討した結果、階段については施錠するようになったものの、御家族も職員も施錠しない事の大切さを理解しており、一緒に外出したり、さりげなく声かけをしたりとケア方法に工夫するように	1	地域の方々に理解を求め、入居者様が1人で外出されているのを見かけた時等は連絡をして頂く等の関係作りに努める。	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はその日のリーダーがリビング対応しており、他2名の職員は居室等に居られる入居者様の対応と基本的に決めて常に職員間で確認し合っている。夜間においては、2時間毎に見回りを行い必要に応じて時間を短縮する等して安全に配慮している。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、火気類については職員管理にしており、希望に応じて貸し出しするようにしている。その際は勤務者全員で確認し合う事で危険を防いでいる。また、薬に関しては個々の状態に応じて職員管理するようにしている。	0		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	関連病院に発足されている安全推進委員会に加入し、毎月1回インシデント、アクシデントとして報告書を提出している。安全推進委員会で検討された予防対策等を持ち帰り、月に1回のカンファレンスで報告し、事故防止及び再発防止に取り組んでいる。	1	日々の申し送りの中でも予測される危険等を確認共有するように努める。			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事業所独自のマニュアルを作成し、目に付く場所に掲示している。と共にマニュアルに沿った対応が各職員出来るように周知徹底している。また、消防署の協力を得て普通救命講習の研修を受けて、事故発生時に備えている。	1	救急法等の勉強会や研修を定期的に行う事で技術の習得に努める。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自のマニュアルを作成すると共に、消防署の協力を得て年2回3月と9月に火災（昼夜1回づつ）を想定した訓練を実施してをり、初期消火や避難の方法を習得するようにしている。また、災害時に備えて缶詰や水、レトルト食品を準備している。地域の方への協力依頼は現在も行われていない。	1	自治会行事への参加を積極的に行い、協力依頼を得られるように努める。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況に応じて御家族に来訪して頂いたり、電話で報告したりして状況報告や今後の方針等を説明する機会を設けて話し合うようにしている。と共に、予測されるリスクについてを職員間で話し合い、なるべく御本人の希望どおりになるよう説明している。	1	来訪できない御家族については文章等を定期的に発行し報告するように努める。また、リスク対応についての話し合いを家族会等を利用してお互いが理解しあえる機会を設けるように努める。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	6	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な体調変化や表情の変化に留意し「いつもと違う」事柄を発見した職員は、勤務者全員に連絡しバイタル測定や状態観察を実施。必要に応じて、医療機関や管理者に報告し指示を仰ぐように努めている。また、他の職員には申し送りノート等を活用して情報を共有するようにしている。	1	常に表情等を観察し、兆候の見落としがないよう毎日のミーティング中で確認し合い、体調変化の早期発見に努めている。
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「くすり手帳」を活用し、処方箋を貼付整理した上で、職員全員が目を通せるように1つの入れ物に入れ、わかり易い場所に保管し把握できるようにしている。また、必要に応じて薬の必要性など医師に相談、指示受けを看護師が中心となって行うようにしている。服薬時には、2名以上の職員で確認を行い誤薬防止に努めている。	1	処方の変更があった際には、申し送りノート等を活用して全職員の共有に努める。また、服薬確認の際は声出し確認（3回）の徹底を図る。
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食のメニューに乳製品を取り入れ、毎朝飲んで頂いたり食事やおやつに捉われず日々多めの水分摂取に努めている。また、腹部マッサージや軽い運動を働きかける事で自然排便が出来るよう支援している。必要に応じて、関連病院の医師と相談して下剤や整腸剤を出して頂いている。	1	おやつメニューに食物繊維の多いものや乳製品を取り入れ自然排便の促進に努める。また、外出する機会を適度に設ける等の工夫を検討する。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様には、毎食後や就寝前に歯磨きやうがいの声かけを行っている。支援が必要な方には見守りや介助を必要最低限の範囲で職員が行っている。また、義歯の洗浄については職員が就寝前に行っている。	1	口腔ケアの勉強会や研修に参加を検討する等、口腔ケアの知識や技術の向上に努める。また、提供医療機関に専門医がある為、必要に応じて往診して頂いたり、電話をかける等して指導や相談をして頂いている。
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能の低下が見られる入居者様には「刻み食」や「ミキサー食」等食事形態を工夫して、食べて頂いている。摂取量（必要な人は水分量も）については、毎日チェック表に記入するようにし、情報の共有に努めている。定期的に給食会議を開催し、栄養士との情報交換やアドバイスを頂く機会を設けている。	1	御家族や職員、栄養士間で「情報」や「気づき」アイデアを出し合い、御本人の食生活を共に支援出来るように努める。
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	事業所独自のマニュアルを作成すると共に、関連病院で行われている感染対策委員会に毎月1回参加し、月に1回のカンファレンス等を利用して全職員で学習し予防、対策に努めている。また、入居者様及び御家族に同意して頂きインフルエンザの予防接種を職員共に受けている。	1	感染に対する新しい情報収集に努め、流行に随時対応出来るように取り組む。
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は洗浄後加熱消毒を兼ねて乾燥機にかけており、まな板や布巾等は毎晩漂白し清潔に心がけている。また、食材等は毎日冷蔵庫のチェックを行い、状態を確認しながら賞味期限が切れている物等は処分する等の対応をしている。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)		自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	7	
	2 生活の環境づくり	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)		自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	5	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを設置し、四季折々の花等を植える等して明るい雰囲気作りを演出するようにしている。また、毎年ツバメが巣を作っており、ちょっとした名物になっている。と共に敷地内に犬を飼っており、近隣の方々に可愛がってもらっている。	1	プランターの手入れをこまめに行うように努める。また、近隣の方々と一緒に花を植える等の機会を設けるように検討する。
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月入居者様と一緒に作成した飾り付けをしたり、季節の花を飾っている。また、家具等使い慣れた物を持ち込んで頂き、御自分の家を意識して頂けるよう御家族に依頼している。また、御飯の炊ける匂いや音等を大事にしている。	1	馴染みの物を数多く入れる等、個々の価値観や感覚を大切にしながら居心地の良い空間作りに取り組む。また、御家族を含め地域の方の意見等も盛り込んだ空間作りを検討する。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやリビングに椅子やソファを置き写真などを飾り、入居者様同士がゆっくりと居心地の良く過ごせる空間作りに努めている。また、一人でゆっくりと過ごせるスペースも同様に確保している。	1	個々の状態の変化や入居者様同士の関係に配慮し、ちょっとしたスペースを検討する。また、気候に合わせて、テラスにパラソル付きテーブルを設置しゆっくりと過ごせるスペースを確保する等の工夫に努める。	
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスとベッド以外については、御本人の馴染みの物や写真等使い慣れた日用品等を持ち込んで頂くようにしている。また、御家族に同様をお願いしている。	1	御家族の協力が困難な入居者様には、ぬいぐるみや花等を準備する等の工夫に努める。	
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃を毎日行うようにしており、その際窓を開けて空気を入れ替えをしている。また、各居室に温度計を置く等して、気候や入居者様の状態、希望に応じて職員が冷暖房の調整を行っている。トイレについては常に換気扇をまわし、消臭剤を使用して悪臭防止に努めている。	1	可能な限り室温を一定に保ち、入居者様には衣類での対応を声かけしている。	
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	2	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、出来るだけ自力で歩行等を安全に行われるよう配慮している。また、廊下やリビングには必要最低限物を置かないようにする等環境を整えている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室入り口にはネームプレートや花等を付けて御自分の部屋が分かるように工夫すると共に、個人の物と共同の物の区別が分かるように名前を記入している。また、月に1回のカンファレンス等で「どうしたら本人の力でやっていけるか」や不安材料を取り除き力を取り戻せるよう支援している。	1	入居者様の認識相違等を最小限にする工夫を検討する。	
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花を植えたりすると共に敷地内に犬を飼っており、いつでも触れ合える環境作りをしている。また、駐車場では年に1回手持ち花火大会を開催している。	1	ベランダのスペースをより有効に活用出来るように検討する。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。